

2024年2月19日発行
■発行責任者／佐藤幸雄 ■編集・制作／(株)プロトリオス
■発行／(株)NGP 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F TEL03(6705)1212

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合名誉顧問 大石一彦氏が逝去

多大な功績に敬意を表し、
大石名誉顧問の掲げた
“お客様第一” の理念の実践を誓う



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
名誉顧問 大石 一彦氏（おおいし・かずひこ）
が1月14日、死去しました。79歳でした。

告別式は、1月17日11時に、JAべっぷ
プリエール天寿の杜で大石家、NGP日本
自動車リサイクル事業協同組合、株式会
社NGPの合同葬で執り行われました。喪主
は妻の稔子様。

大石名誉顧問は、1985年にNGPを創立
し、自動車リサイクル部品業者の在庫共有
のシステム化を図り販売網とシステム構築
を指導、開発した先駆者の一人です。

1985年4月、在庫共有化に賛同する九
州3社で西日本グッドパートグループを立
ち上げ、1987年に全国200社の共有化を
目指して本部を開設し、名称も日本グッド
パートグループ（NGP）に変更しました。

過去の自動車リサイクル部品販売の課題
は、地域販売に制約されることでした。大分
県別府市に拠点を構え、リサイクル部品
在庫の共有販売化を軸とする流通システム
近代化を求めて仲間を募り、在庫共有シ
ステムの流通ネットを築きあげました。大分
という中央から遠い地域だからこそ、その
課題を乗り越えるIT技術利用の発想が生ま
れたといえます。

大石名誉顧問は、将来普及が予想される
小型パソコンでのソフト開発に着手し、
1989年オンラインシステム（スーパーラ
イン）を開発。1991年5月から、自動車
リサイクル部品の在庫管理・受発注シス

ムの導入を含む営業活動を行いました。

1992年2月創設以来7年間、陣頭で指
揮し全国を走り回っていた大石名誉顧問に
突然の病魔が襲いました。懸命の救命措置
で最悪の事態は回避されましたが、この時
からNGPは転換期を迎えることになりました。
以来32年、大石名誉顧問は闘病に
専念しながらも、毎年の総会でメッセージ
を頂くなど、常にNGPを見守り続けてい
ました。

我々NGPは、大石名誉顧問の、「全国の
自動車リサイクル事業者をオンラインネッ
トワークで結び、巨大な共有部品倉庫を実
現させ、業界のビジネスモデルを構築する。」
という、「夢」を実現するために集ま
った同志です。大石名誉顧問がいなければ、
今のNGPがないというほど、NGPにとっ
て大切な存在を失いました。

葬儀委員長のNGP日本自動車リサイク
ル事業協同組合理事長・小林信夫氏は弔辞
にて、「NGPの創設以来、その卓越した才
能と尽力により業界に不朽の足跡を残して
頂いた。大石名誉顧問の掲げた“お客様第
一”的理念をこれからも実践し、社会に選
ばれるNGPとなれるように精進していき
ます」とお別れの言葉を捧げました。

また、最後にNGPのチャーターメンバ
ーであるNGP日本自動車リサイクル事業
協同組合顧問・青木勝幸氏より「我々
NGPメンバーが今後、より一層結束力を
強め、リサイクル部品業界の成長と発展を
を目指して行くことが大石本部長の願いであ
ると思います。非常に悲しいことではあり
ますが、これからもNGPは前進していき
ます」と最後の言葉を捧げました。



2023年新車販売市場

経済活動が本格化、半導体不足緩和により5年振りに昨年実績上回る

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車連合会の発表によると、2023年の年間新車販売台数は4,779,086台で前年と比べて13.8%の増加となり、5年ぶりに昨年実績を上回りました（グラフ1）。

そのうち登録車の販売台数は3,034,167台で同18.4%の増加でした。また、車種別の販売台数（表1）では、軽四輪貨物車が昨年を2.3%下回ったものの、ほかの車種はすべて前年度を上回りました。

2023年の月別販売台数の推移（グラフ2）を見ると、年間を通して前年度を上回る結果となりました。昨年5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し経済活動も本格化、半導体需給不足も緩和

され、その影響が出ていました。コロナ禍以前の年間500万台には届かぬものの、市場は回復傾向です。

通称名別販売台数ランキング（表2）では、1位はホンダ・N-BOX（23万1,385台）、2位はトヨタ・ヤリス（19万4,364台）で昨年と順位は変わらず、それぞれさらに3万台前後売り上げを伸ばしました。3位はダイハツ・タント（15万9,392台）でした。

販売台数が回復の兆しを見せている一方で、自動車業界のコンプライアンス問題を受けて、一般ユーザーに不安の声が広がっています。その不安が本年の新車売上げにどのような影響を及ぼすのか、今後の動向を注視する必要があるでしょう。

グラフ1 新車販売台数の推移



グラフ2 2023年月別販売台数の推移

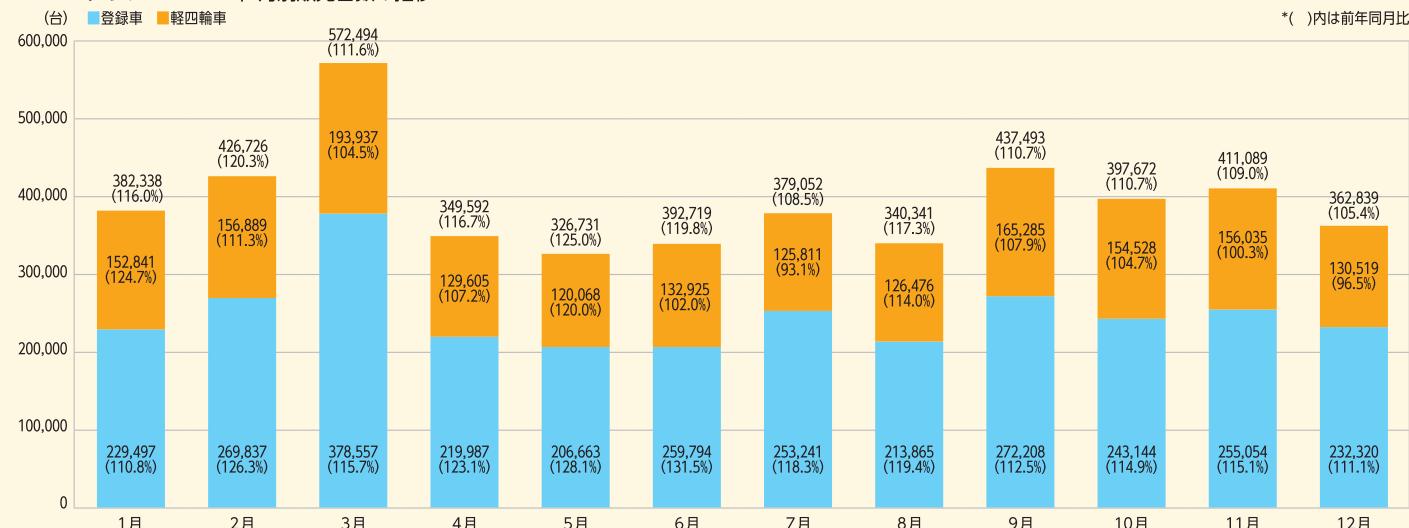


表1 2023年 年間車種別販売台数

	販売台数(台)	前年対比(%)
普通乗用車	1,758,169	130.6
小型乗用車	893,228	101.8
乗用車小計	2,651,397	119.3
普通貨物車	143,690	117.2
小型貨物車	230,670	108.9
バス	8,410	153.5
登録車合計	3,034,167	118.4
軽四輪乗用車	1,341,330	109.5
軽四輪貨物車小計	403,589	97.7
軽四輪車合計	1,744,919	106.5
総計	4,779,086	113.8

表2 2023年 通称名別 年間新車販売台数ランキング

順位	通称名	ブランド名	台数	前年比
1	N-BOX	ホンダ	231,385	114.4
2	ヤリス	トヨタ	194,364	115.3
3	タント	ダイハツ	159,392	147.8
4	カローラ	トヨタ	154,870	117.7
5	シエンタ	トヨタ	132,332	192.0
6	スペーシア	スズキ	122,275	122.0
7	ムーヴ	ダイハツ	104,557	110.2
8	ノート	日産	102,508	93.1
9	ルーミー	トヨタ	100,800	92.3
10	プリウス	トヨタ	99,149	303.4
11	ノア	トヨタ	95,181	165.0
12	ヴォクシー	トヨタ	89,080	160.4
13	ハスラー	スズキ	82,720	117.5
14	アクア	トヨタ	80,268	111.4
15	フリード	ホンダ	77,562	97.5
16	セレナ	日産	75,673	131.6
17	ハリアー	トヨタ	75,211	220.0
18	ワゴンR	スズキ	72,235	87.9
19	ルークス	日産	70,536	97.2
20	アルト	スズキ	67,719	100.8

*()内は前年同月比

東京オートサロン2024開催

創意工夫に富んだ 多種多様なカスタムカーが一堂に会する

日本最大級のカスタムカーイベント「東京オートサロン2024」が1月12～14の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

378社（前回341社）、4,329小間（前回3,904小間）と昨年より規模を拡大して行われた今回は、国産カーメーカーや輸入車インポーター、アフターパーツメーカー

一、カスタムショップなどが新型車やコンセプトカー、カスタムカーなど893台（前回789台）を展示しました。

また、ライブイベントやカスタムカーによるデモ走行など多くの催しも行われ、3日間合計の来場者数は230,073人（前回179,434人）とにぎわいを見せました。



スズキ

スズキのブースで最も輝きを放ったのがスーパーイヤリをベースとしたマウンテントレール。ボディとドアにロールケージを施した骨太の軽トラをアピール



SUBARU

メタル感のあるボディはフルラッピングで強面のフロントマスクに仕上げられたフォレスター・ブーストギアパッケージ。昨年のクロストレックに引き続き、SUV本来のオフローダーを全面に訴求した



TOYOTA GAZOO Racing

豊田会長の愛車6台が並べられ、その内の1台であるレクサス・LBX。昨秋に発売されたコンパクトSUVはレクサス初のGRとのコラボを実現。LBX MORI ZO RR CONCEPTを展示



日産自動車

ピンクのフルラッピングをまとい、専用バンパーとガーニッシュ、そしてワイルドなオーバーフェンダーを装備したエクストレイル クローラーコンセプトで、カスタムの魅力をアピール



ホンダ

Honda DNAとして漆黒のボディでひときわ存在感を高めたシビックRSプロトタイプなどを展示。同車は6段MTを搭載し、今秋の発売を予定して開発が進められている



マツダ

ロードスターのマツダスピリットレーシングRSコンセプトが公開され、ファンを賑わせた。ソフトトップでも2.0ℓエンジンを搭載したロードスターが発売されるのかなど期待を高める展示となった



三菱自動車工業

「冒險」と「信頼」の2つをテーマに、2月に発売される13年ぶりの復活となる新型ピックアップトラック・トライトンなど7台をアピールした。エンジンは2.4ℓ直列4気筒ディーゼルターボの4N16を搭載

NGP 今月のCO₂削減量

リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和5年12月： 1,752t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効率の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）を対象に算出した数値です。

リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和5年12月： 0.3t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

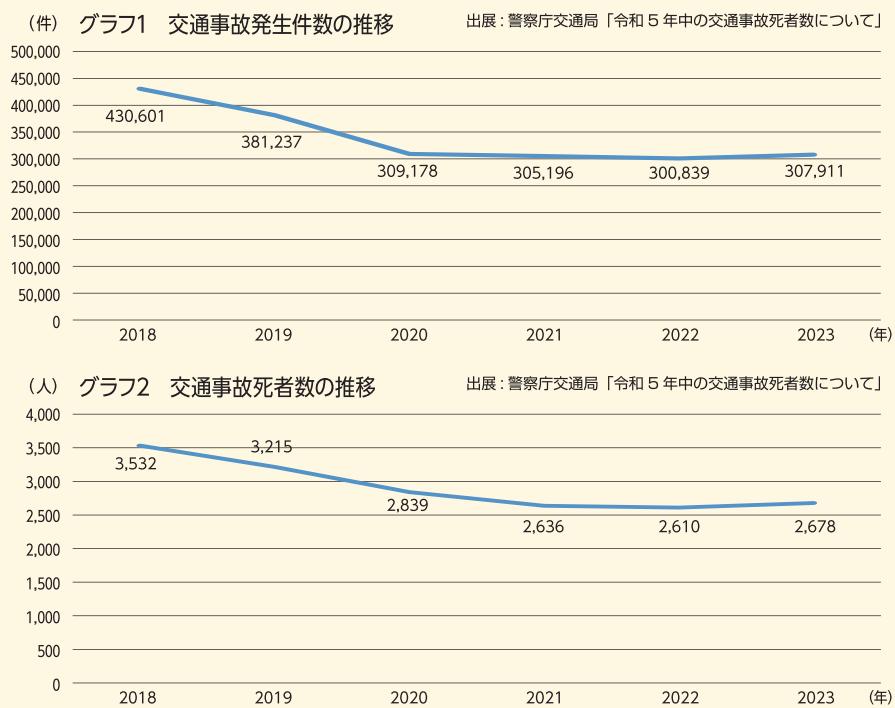
警察庁2023年中の交通事故発生件状況を発表

事件発生件数、負傷数とともに8年ぶりに増加

警察庁はこのほど、2023年中の交通事故発生状況を発表しました。それによると2023年に発生した交通事故の件数（グラフ1）は、前年より7,072件多い307,911件、負傷者数は同8,426件多い365,027人、死者数（グラフ2）は同68人多い2,678人でした。

事故の増加の一因には、コロナウイルス感染症が5類に移行し、経済活動が活発化したことがあると考えられます。

国土交通省は第11次交通安全基本計画において、来年までに事故死者数を2,400人以下にすることを掲げています。先進安全装置や自動運転技術の開発を受けて、自動運転車の社会実装やADASの点検・整備に関する法整備が進められています。各種技術の進化及び普及にともない、事故発生件数は今後再び減少傾向に転じることが予想されます。



NGP組合員 かわら版

第2回廃車王加盟店会議を開催 業界No.1のサービス提供を目指して

NGP協同組合が展開する一般ユーザー向けの廃車買い取りサービス「廃車王」は2023年12月12日、業界No.1の対応品質を目指して、顧客満足度向上を目的とした加盟店向け会議を開催しました。

2回目となる今回は、加盟店に寄せられた感謝の言葉や、過去のクレーム事例の共有などを行いました。特にクレームになりやすい事案については、参加者全体に向けて注意喚起と再発防止を促すとともに、お客様に安心して任せていだくための適切な対応方法について、議論を深めました。

会議を運営した廃車王委員会・斎木崇司委員長は、「私たちが日々対応する廃車の手続きも、お客様にとって一生のうちに何度もあることではありません。私たちにとって当たり前のことも、当然、お客様にとってそうではないことを理解し、廃車として手放す時のお客様の心情を汲み取り、1件1件丁寧に対応することで、“廃車王に任せてよかった”、“次も廃車王にお願いしたい”と思っていただけのサービスを提供していきましょう」と、廃車王加盟店に向けて想いを語りました。



左から斎木崇司委員長、伊藤孝雄副委員長



会議には全加盟店が参加

廃車王は、お客様に“廃車王に頼んでよかった”と感じていただけるように、今後もサービス品質の向上を目指した取り組みを継続していきます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリント認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。